

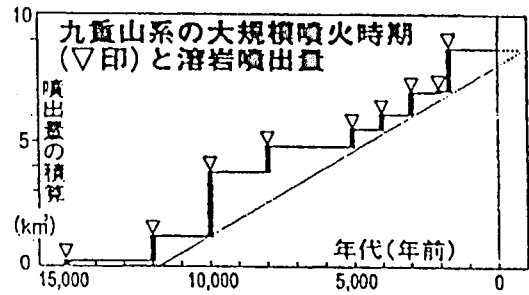
# 129 九重火山1995年噴火及び北海道駒ヶ岳1996年噴火について

国際航業（株）○中筋章人・原口勝則

## 1 九重火山1995年噴火の概要

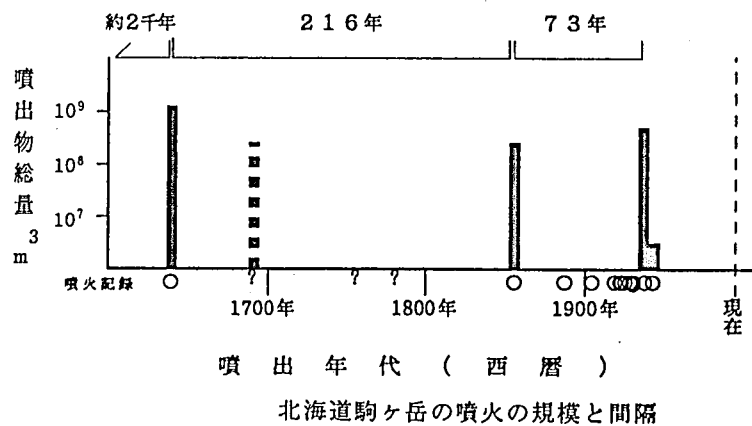
1995年10月11日夕刻、大分県の九重火山は、硫黄山付近から噴火を開始した。火口は、ほぼ東西方向に400mにわたり線状に分布し、噴煙は高度約1,000mに達し、これに伴う降灰は大分県久住町や熊本県南小国町で確認された。

九重山系は、硫黄山(1580m)など20以上の火山が集まり、15万年前から活動を始めた事がわかっている。また鎌田（地質調査所）によって下図のように、15,000年間に9回の大規模なマグマ性の噴火を起こし、大量の溶岩を噴出した活動度の高い火山であること、その溶岩噴出量は1,000年当たり $0.7\text{Km}^3$ で雲仙普賢岳周辺の $0.1\text{Km}^3$ よりはるかに多いことが明らかにされている。筆者らは、図-1に示すように噴火後の空中写真を用いて火山地形判読を行った。火山灰の堆積は2cm以上が直径約500mの範囲と、それほど広くはなく、現在のところ降雨による土石流等の危険性は小さいが、硫黄鉍山跡の急斜面あるいはその奥の肥前ヶ城山腹は、多数の噴気孔が見られ大規模な斜面崩壊とその結果長者原付近への大量の土砂流出が危惧される。



## 2 北海道駒ヶ岳1996年噴火の概要

1996年3月5日、北海道南部の駒ヶ岳(1131m)は54年ぶりに噴火した。駒ヶ岳の歴史時代における噴火は、小規模な場合は水蒸気爆発、大規模な場合は火砕流を伴うプリニー式噴火を起こしている。その噴火間隔を右図に示すが、とくに一定の規則性はみられない。



昨年度、住民用と行政用のハザードマップ（その一部を図-2に示す）を作成したところであるが、駒ヶ岳の噴火活動は前兆現象がとらえにくく、かつ大規模な噴火はマグマの上昇とともに短時間（1～3日）で破局的活動をするため極めて危険な火山である。

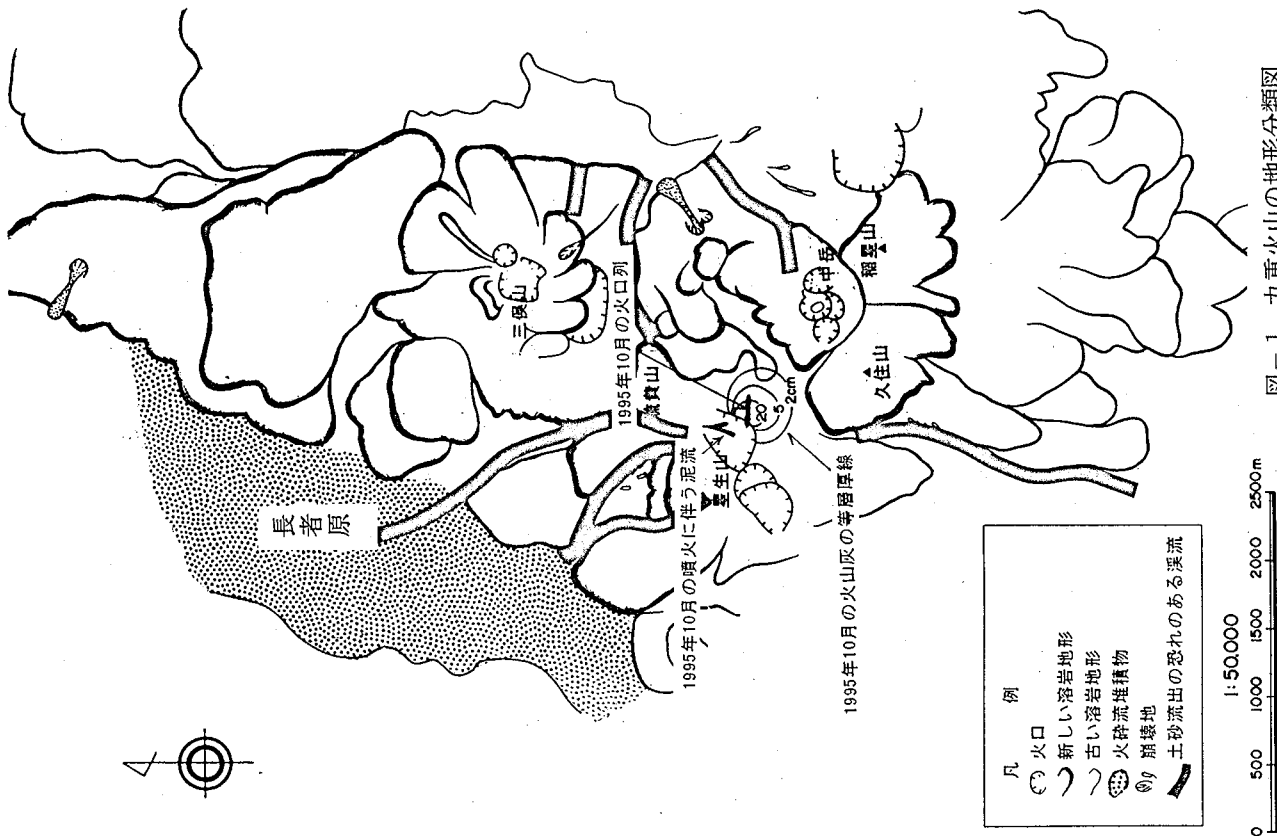


図-1 九重火山の地形分類図

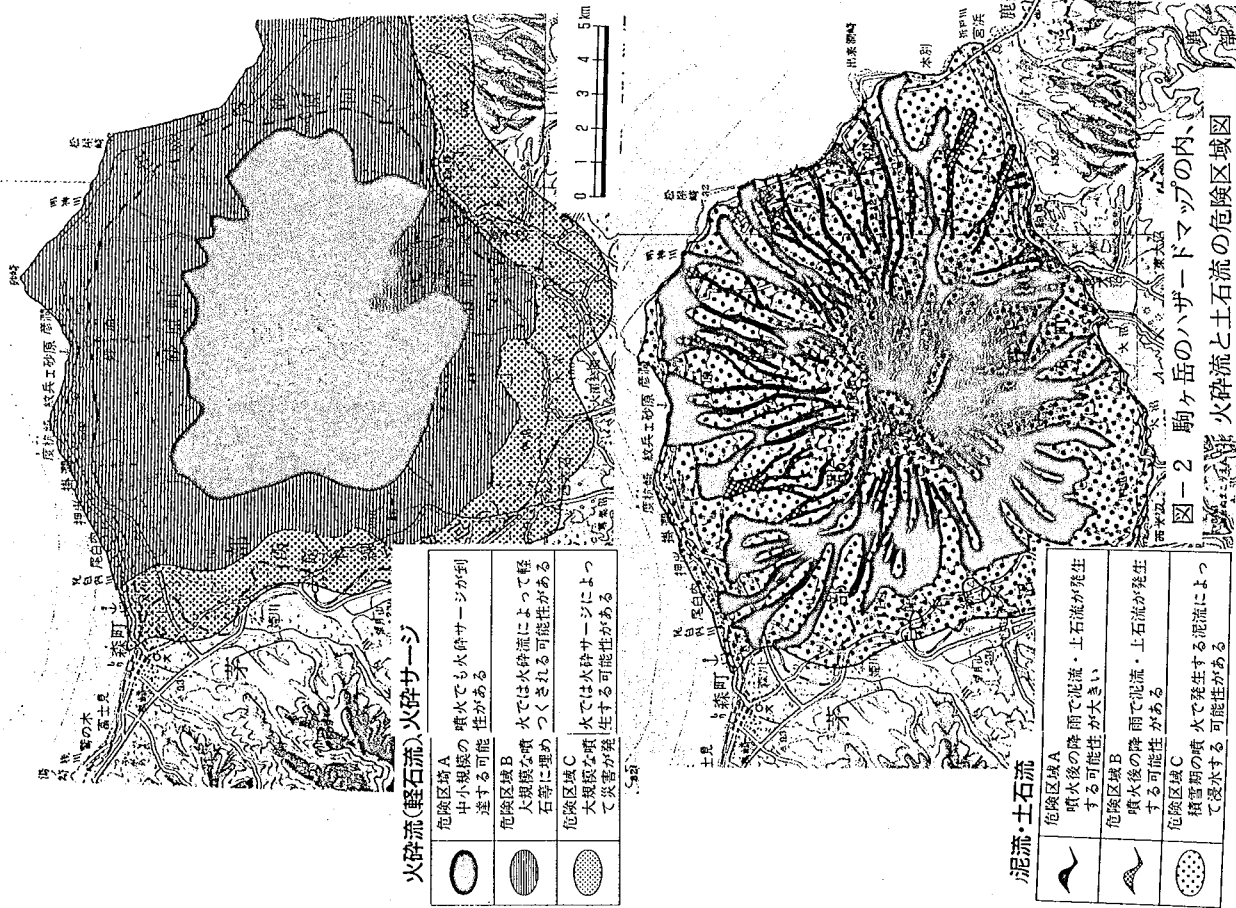


図-2 駒ヶ岳のハザードマップの内、火砕流と土石流の危険区域図

火砕流(軽石流)、火砕サージ

危険区域A	噴火でも火砕サージが到達する可能性がある
危険区域B	大規模な噴火では火砕流によって軽石等に埋わりつくされる可能性がある
危険区域C	大規模な噴火では火砕サージによって災害が発生する可能性がある

泥流・土石流

危険区域A	噴火後の降雨で泥流・土石流が発生する可能性が大きい
危険区域B	噴火後の降雨で泥流・土石流が発生する可能性がある
危険区域C	積雪期の噴火で発生する泥流によって浸水する可能性がある